

編集者のことば

都市研究センターの共同研究「大都市の地域経済構造変化に対応した環境の保全創造に関する総合的研究」は1992年から始まったが、本号は、そのサブ・グループの一つである都市社会グループの研究の一環として行われた「教育と友人関係に関する調査」研究の成果を中心に編集した。この研究は、端的に言えば、今日の大都市社会における教育環境の実態と問題点を探ろうとしたものである。やや具体的には、大都市東京の「学歴社会」の特質を主として学校歴を中軸にしつつも、学校歴、進学・受験、教育観、友人関係、地域活動、地域社会、投票行動の諸問題の相互関連において捉えようとしたものである。

最初の森岡・高橋論文は、序論もかねて、調査研究全体の問題関心・仮説について説明し、特に親の学校歴と子供の学校歴との関連を探っている。浅川・森岡論文は、高学歴層を対象として大都市社会における教育移動のメカニズムを従来より精緻に究明しようと試みている。久保田・直井論文は子供の学校歴における性差を問題とし、性が教育システムを媒介として序列化されていくプロセスを明らかにした。松本論文は都市(度)が親族・近隣・友人等の社会的ネットワークに与える効果、それにもとづく下位文化の形成について検討したものである。立山・森岡論文は母親の教育投資行動・教育観から構成される教育文化と、母親のもつ友人関係との関連を追求したものである。高木論文は子供の私立小・中学校進学の規定要因を、主として親の個人的要因と社会的文脈(両親の出身地)に着目しつつ、検討した。玉野論文は女性の教育観と地域観の関連を分析して、ローカルコミュニティに親近感をもつ人と東京圏に親近感をもつ人との分化を見出し、新しい都市中間層の形成を示唆している。

いずれの論文も、大都市東京の「学歴社会」(学校歴社会)の特質をさぐる上で、新しい知見を含んでいるのではないと思われる。

個別の論文としては、京都大学・田端隆俊先生とパリ大学・Jacques-François Thisse先生から、都市経済学の基礎である空間立地論の基本的問題に関して考察した論文、Asymmetric Equilibria In Apatial Competitionを寄稿していただいた。

もう一編の個別の論文、増田・赤沼・保母・石川・山田論文は、八王子市の教育・研究機関を対象に行った化学薬品の保管状況についてのアンケートおよび実態調査の結果をもとに、化学薬品による出火危険性に対する対策について検討したものである。

都市環境の問題については、1993年10月に行われた都市研究センター第6回公開講演会「環境と対話する都市—都市環境問題の新しい視点—」の講演記録も掲載した。都市研究センターの恒例行事として定着した公開講演会は、いつものことながら、熱心な聴衆の方々会場をうめ、環境問題に関する関心の高さをうかがわせた。

1994年3月

高橋 勇悦